

第2節 生活基盤の安定したまちをつくる

現状と課題

本市の主要幹線道路として、東西道路は北から市道根来3号線外3線(通称:広域農道橋本岩出線)、県道粉河加太線、市道山水栖線と市道水栖西国分1号線(通称:農免道路)、県道小豆島岩出線、国道24号、県道和歌山打田線の6路線、南北道路は東から県道新田広芝岩出停車場線、市道野上野清水線、府県道泉佐野岩出線、市道相谷中島線と、現在整備中の市道安上中島線を含める5路線があります。市では、これらの主要幹線道路に接続する生活道路の充実に努めてきましたが、近年のモータリゼーションの進展により、以前に整備した市道は、老朽化や道路幅員の不足など、さまざまな問題を抱えています。

また、今後関西外環状道路である京都・奈良・和歌山を結ぶ京奈和自動車道インターチェンジが設置されると府県道泉佐野岩出線及び周辺道路の混雑が予想されます。

これら主要幹線道路と生活道路の新たな連結や既存市道の改良及び補修など計画的に道路行政を進めていく必要があります。

市内の公共交通機関としては、JR和歌山線とバス路線網があります。市では、市民の日常生活における安全で利用しやすい移動手段として、岩出市巡回バス、大阪方面バス、紀の川コミュニティバスを運行していますが、モータリゼーションが進む本市では、バス利用者の大幅な伸びにはつながっていません。また、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの抑制のためにも、公共交通機関の利用促進は、喫緊の課題の一つでもあります。そのためにも、公共交通機関の利用増加につながる周知に努めるとともに、市民が利用しやすい公共交通機関の運行やダイヤ改正など利便性の向上が求められます。

また、情報化の面においては、インターネットや携帯電話など、情報通信分野におけるICT*の飛躍的な発達により、市民生活や経済活動など、社会全体のさまざまな分野で大きな影響を与えています。より高度化・多様化する市民ニーズに対応し、すべての市民が高度情報化社会の便益を享受できるシステムの構築が求められます。また、個人情報の保護等の情報セキュリティ対策の強化を図る必要もあります。

本市における上水道については、安全で安定した飲料水の供給と水道水の水質等の品質管理に取り組んでいます。しかし、多様化するライフスタイルやいまだ増加傾向にある給水人口に対応した上水道施設の整備や水圧の低下・上昇が生じている地域の配水管網の見直し、老朽管の更新など、多くの課題を抱えています。

一方、下水道については、平成20年(2008年)12月に一部供用開始を行い、生活環境の改善や紀の川等の公共用水域の水質保全に取り組んでいます。平成13年度(2001年度)から第1次整備区域(149ha)、第2次整備区域(159ha)及び第3次整備区域(179ha)と、安全・安心して使用できる公共下水道の整備を進めています。

*ICT(Information and Communication Technology)
情報通信技術。

■主要幹線道路図



■岩出市内の都市計画道路

路線名	計画決定				
	起点	終点	車線数	幅員 (m)	延長 (m)
京奈和自動車道紀北西道路線	今畑	山	4	20	約 5,800
岩出駅畑毛線	高塚	西野	2	11	1,240
岡田吉田線	西国分	吉田		25	5,870
押川船戸線	押川	船戸	4	25	7,930
安上中島線	安上	中島	2	15	1,770

(資料：和歌山県都市政策課)

■公共下水道

計画人口(人)	計画面積(ha)	使用開始済面積(ha)	整備率(%)
60,000	1,420	100.9	7.1

(資料：和歌山県都市政策課)



基本方針

本市の主要幹線道路の市道安上中島線の早期供用開始及び高規格幹線道路の京奈和自動車道インターチェンジからの円滑な道路動線の構築に取り組みます。また、生活道路の老朽化に伴う改良や補修、道路や橋りょうの長寿命化など、市民が安全で安心した生活ができる道路行政を計画的に推進するとともに、上下水道事業などとの連携を図り、効率的でバランスのとれたハード事業の整備に取り組みます。

市内巡回バスのバス停の新設等や紀の川コミュニティバスとの連携を図るとともに、大阪方面への利用拡大をPRします。今後は、JR等への乗り継ぎの利便性向上やJR岩出駅周辺を公共交通の結節点としての整備など、バス運行の充実を図ります。

ICTを活用した市民の生活に密着した行政情報の提供、電子申請など市民にとってより利便性の高い行政サービスの提供ができるシステムの構築など、行政のICT化と誰もが安心して情報化の利便性を享受できる情報通信環境の充実など、地域情報化を総合的に推進します。

上水道については、安全で豊かな水資源の確保及び安定した飲料水を供給するにあたり、増加傾向にある給水人口に対応した原水の確保及び配水管網の見直しや老朽管の更新などに取り組みます。

下水道については、効率的な事業の進捗を図りながら事業認可の拡大を実施し、公共下水道整備をより一層推進します。また、下水道への接続促進に努めるとともに、上下水道ともに使用料金等の収入確保に取り組みます。

成果指標

指標	現状値 (H22.4.1)	中間目標値 (H27 末)	目標値 (H32 末)
①道路網の整備の満足度	28.6%	33%	40%
②公共交通の充実の満足度	18.4%	20%	25%
③大阪方面バス・巡回バスの利用者数	94,328 人	100,000 人	107,000 人
④情報システムの充実の満足度	10.5%	15%	25%
⑤ブロードバンド加入率	51.8%	60%	68%
⑥上水道の整備の満足度	62.3%	68%	75%
⑦上水道の有収率	86.5%	88%	90%
⑧下水道の整備の満足度	24.8%	28%	33%
⑨下水道加入世帯数	447 世帯	6,000 世帯	10,900 世帯

施 策

① 道路網の整備・充実

(1) 広域幹線道路の整備促進

- 府県道泉佐野岩出線の和歌山県境から大阪側の全線4車線化と、国道24号備前交差点から岩出橋を通過し、海南市を通る国道42号につながる区間の早期計画決定及び事業化を、大阪府及び和歌山県に要請します。
- 関西外環状道路となる京奈和自動車道の早期開通とインターチェンジの早期設置を関係機関に要請します。

(2) 幹線道路の整備

- 都市計画道路安上中島線の早期供用開始を図ります。
- 京奈和自動車道インターチェンジ設置に伴う、府県道泉佐野岩出線を含めた周辺道路の交通量の増大を分散するための道路整備を進めます。

(3) 生活道路の充実

- 日常生活に欠かせない生活道路の拡幅やバイパス道路の新設、老朽化による改修を計画的に取り組みます。

② 公共交通機関の整備・充実

(1) 公共交通機関の利便性向上

- 紀の川コミュニティバスと連携を図り、市内巡回バスとの乗り継ぎの円滑化に努めるとともに、大阪方面バス、JR、南海電鉄とのスムーズな接続を行い、バス利用者の利便性の向上に取り組みます。
- 駅舎などのバリアフリー化を要請するとともに、すべての人にやさしい交通環境づくりに努めます。
- 公共交通の結節点として、JR岩出駅周辺の沿道整備等に取り組みます。

(2) 公共交通機関の利用推進

- 温室効果ガスの抑制を推進するためにも公共交通機関の利用促進につながるPR活動に取り組みます。

③総合的な情報化の推進

(1)総合的な情報化計画の策定

- 高度情報化社会に対応するため、地域情報化と行政情報化を一体的に進めるための総合的な情報化計画を策定します。

(2)情報通信環境の整備

- 世代を超えて高度情報化に対応できるように、多くの市民が情報リテラシー※1の向上を図れる場を提供するなど、総合的な情報通信環境整備に取り組みます。

(3)電子自治体の推進

- インターネットを通じて、いつでも・どこでも・誰でも、簡単かつ安全に行政サービスを享受できるシステムを構築します。

(4)情報セキュリティ対策の推進

- 情報資産の取り扱いを適正に行い、情報システムの安全性・信頼性を確保し、市民が安心して情報化の恩恵を享受できるセキュリティ対策を継続的に行います。

④上下水道の充実

(1)上水道の安定供給

- 安定した上水道の供給のために、第3次拡張事業認可の変更認可に基づき、塩化ビニール管等の老朽管の更新、水源地・配水池等の水道施設の整備を進めます。

(2)下水道の充実

- 健康で快適な生活を営み、良好な環境を確保するうえで欠かすことのできないインフラ※2としての公共下水道整備を推進します。
- 公共下水道が果たす環境保全やまちづくり等の役割についての啓発を行い、経営の健全化という観点からも、あらゆる機会を通じて加入促進に努めます。

(3)上下水道の安定経営

- 上下水道の維持管理体制の整備や経営の効率化を図るとともに、上下水道料金の収入確保に取り組みます。

※1情報リテラシー
情報化社会でコンピューターなど情報関連技術を習得し、積極的に情報を活用することのできる能力。
※2インフラ(正称インフラストラクチャー)
国民の福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設。